

一枚の絵葉書から

石井敏夫コレクションより

第59回

國中幣社 二荒山神社之景



この絵図は『大日本名蹟図誌』第十編下野之部第三卷に収録されていたものの別刷りである。第三卷は「宇都宮市、河内郡、芳賀郡」からなり、宇都宮社寺之部は、二荒山神社をはじめ、桂林寺、清巖寺、延命院など名祠巨刹を描いた銅版画による絵図と解説にから構成されていた。絵図一九〇三(明治三十六)

年四月五日印刷とあり、印刷所は日野町の合資会社光彰館。販売価格は十銭だった。ただし日野町の住所は各県における便宜上の記載であり、光彰館は名古屋に本社を、大阪に彫刻部を持っていたという。(『大日本名蹟図誌』復刻版／解説 阿部昭・石川昭範)

ここに描かれている二荒山神

1873(明治6)年5月、神社制度改革により宇都宮二荒山神社は國中幣社から県社に降格した。「延喜式」にいう式外社であるというのが理由だった。しかし、社格回復運動の結果、1883(明治16)年5月、河内郡役所で國中幣社に列格された旨の達があった(『うつのみやの歴史』宇都宮市)



神社本殿



神社拝殿



神社神楽殿

社および下之宮の絵図は宇都宮が市制を施行した一八九六(明治二十九)年ごろと思われる、周辺に高層の建物もないことから、白が峰の小山に神木が生い茂り、まさしく神域のたたずまいそのものであったことがうかがい知れる。

また、絵図右上の下之宮が鎮座する招魂山には一段高い所に招魂社が祀られ、かつて荒尾崎と呼ばれたこの小山が、白が峰と一体の丘陵あったことが想像される。